

『地球の温暖化』

人類がこの地球上から絶滅するとしたら、地球の温暖化によるのではないのでしょうか。それ程この問題は深刻です。

アル・ゴア (AL・GORE) 元、アメリカ副大統領の映画「不都合な真実」が静岡でも4月に入って漸く上映され、早速鑑賞してきました。

副大統領になる以前の上院議員時代から多忙な中、熱心に全世界で講演してきた集大成というべきものです。

彼はこの映画で「人類の文明は、エネルギーを消費し発展してきたが、反面、それは、地球環境を汚染する歴史でもあった。45年後には、世界の人口が90億人に達すると予測されている今日、地球温暖化による危険信号が世界中で点っている。

北極の氷は、この40年間に40%縮小し、今後50~70年で北極は消滅し水位は6m上昇する。

この四半世紀の間に発生した鳥インフルエンザやSARSといった奇病、猛威を振るったハリケーン、カトリーナは、偶然起きたのではない。」と警告しています。

折しも、4月30日には、国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) が、「地球温暖化の将来予測や影響分析」について、第4次報告書を発表しています。

それによりますと、地球の温暖化は、人間活動による二酸化炭素などの排出によるものだと断定し、「今世紀末の地球の平均気温が20世紀末に比べて最大6.4度上昇し、アフリカでは、2020年までに7,500万~2億5000万、アジアでは、2050年代までに、10億人以上が水不足になる恐れがある」と予告しています。

気温の上昇は、動植物の生命に危険が及びます。「気温の上昇で、生息する地球の環境が変わり、多くの生物はこの早い変化に適応できず、全世界で動植物の種の30%が絶滅する恐れがある。北極海では、夏に氷がなくなるとホッキョクグマの生態に悪影響を及ぼす。海面温度の上昇で熱に弱いサンゴが死滅し表面が白っぽくなる、白化現象が進む」と訴えています。

100年掛けて溶けた北極の雪氷は、温暖化防止後、100年では元に戻りません。恐らく300年否400年以上掛るのではないのでしょうか。

珊瑚礁は、元々CO₂を吸収する働きがあるが、「白化現象」が進むとこの働きをなくし、更に温暖化が加速する悪影響に陥ります。

よって、地球の温暖化による弊害は幾何級数的に増幅します。

先般NHKのテレビで、北極の雪氷が溶けて流水上のホッキョクグマがアザラシを取りに行けず痩せ細った姿を映し出していました。

私はこれを観て、いずれ人間の行く道と思えてなりませんでした。

今、人類はタイタニック地球号の乗船者なのです。

このような危機的状況に直面していながら、世界の政治家のこの問題の受け止め方には大きな差があります。

アル・ゴア元副大統領のおひざもと米国は、世界のCO₂排出量の23%を占める最大排出国です。先般のハリケーン、カトリーナは人災だと言われています。にもかかわらず、米国は京都議定書の調印を拒んでいるのです。

また、オーストラリアは、オゾンホールのもっと大きくなる地域として知られています。幼稚園では、外の遊び場に必ず屋根かテントが張ってあります。それなのにこの国も又、京都議定書の調印をしません。

更に、カナダは先日、温暖化防止目標を断念すると表明しました。世界の Co2 の排出量 16% で第 2 位の中国も、4% のインドも途上国ということで排出削減を義務付けられていません。

今、最も熱心なのは、欧州連合（EU）です。

それでは、日本はどのような取組みをすべきでしょうか。

1997 年京都で温暖化防止のための国際会議が開催されました。よって、この時決定した国際協定を開催地の「京都」を冠して「京都議定書」と呼ばれています。

ここでは、温室効果ガスを 2008 年から 2012 年の間に、1990 年レベルよりも 6% 減らすよう義務付けられています。

まず、日本は、開催国のメンツに掛けても、このノルマは死守すべきです。

今後、あらゆる人が、あらゆる場面で、このテーマを話題にすべきです。そしてあらゆる行動の判断基準にこのテーマを入れるべきです。

日本は自らのノルマを果すだけでなく、省資源社会のモデルを実践し、世界の模範となり、影響力を持つべきだと考えます。

平成 19 年 5 月 7 日

アイクス税理士法人

代表社員 飯田 昭夫